

2010年度後期「文系チャレンジ講座（全4回）」実施予定と講義要旨

主催：大分大学

場所：大分大学経済学部203号教室

日時：第3水曜日 16:50～17:50

来学受講者：大分県内の高校生

遠隔配信先：大分雄城台高校、大分商業高校、日田高校、安心院高校、大分鶴崎高校、
中津南高校

概要

本講座は、経済学部の4名の教員がリレー方式で高校生向けに開講します。経済学や経営学に加え、歴史学や地域学のエッセンスを短時間でわかりやすく学習できます。

第1回 2010年10月20日（水）16.50-17.50 簿記だけが会計じゃない！

—会計に関するディープな話—
大崎美泉（経済学部教授）

世の中には「会計＝簿記」という誤解がなんと広く蔓延しているのでしょうか！
経済学部や商学部に入って、最初に勉強させられる会計関連の科目は「簿記」というケースが大変多いようです。実は、このことが皆さんを「会計嫌い」にしてしまう大きな要因となっています。簿記は、財務報告書を作る手段にすぎません。言い換えると、情報作成のための単なるツールでしかないのです。大事なことは、企業に関するどのような情報をどんなふうに作成し、それをいつ誰にどのような形で伝えるかなのです。すなわち、企業に関する情報の作成と伝達のためのプロセスこそが会計なのです。授業では、こういった会計に関わる奥深い話をしていきたいと思っています。

第2回 2010年11月17日（水）16.50-17.50 農業・農村の実態と若者の挑戦

山浦陽一（経済学部准教授）

この講義では、農山村の経済、社会の実態と、そこでの若者の挑戦を紹介します。大分県内をはじめ、日本の農山村では過疎化、高齢化、地域経済の疲弊、生活インフラの脆弱化など、多様な問題が絡み合いながら深刻化しています。他方で、その課題解決に向けた模索も続いています。本講義では、特に若者の活動に焦点を当て、困難な中でも若者が活躍するフィールドとしての農山村の魅力を解説します。

なお、教員の話を一方向的に聞くのではなく、受講生にも「考え」、「書き」、「話」してもらいながら進めていきます。

第3回 2010年12月15日（水）16.50-17.50 歴史を経済学の視点で見る

城戸照子（経済学部教授）

高校生の皆さんにとって、歴史は暗記物の受験科目かもしれませんが、実は歴史学は、過去を解釈する学問です。現在の歴史学の対象は過去の「事件」ではなく「社会」です。この講義では、大学で勉強する歴史学、なかでも経済史がどのような見方から史料を分析して過去の社会を再構築するか、その方法を皆さんにお話しします。モノの売買や食物の変化や人口数や平均余命や賃金はどうなっていたのか。高校での歴史の勉強が、大学で発展していくことを実感してもらい、「社会」を見る物差しを意識してもらえたらいいなと思っています。

第4回 2011年1月19日（水）16.50-17.50
グローバル化って何だろう

柴田茂紀（経済学部准教授）

最近、いろいろなところで「グローバル化」という言葉を聞きます。では、グローバル化って何でしょう？それがこの講義のテーマです。一見、難しそうな言葉に見えるかもしれませんが。しかし、身近な例で考えるとイメージしやすくなります。今回は、Tシャツという身近な商品を取り上げながら、グローバル化の事例を学びます。興味があれば、参考図書として、ピエトラ・リボリ著『あなたのTシャツはどこから来たのか？』（雨宮・今井訳、東洋経済新報社、2007年）を読んでおいて下さい。世界の意外なつながりに気づくでしょう。